会　報

Partner

AUG.2020

No.39

長崎日米協会

The Japan-America Society of Nagasaki

ご挨拶　～創立 50 周年を迎えて～

長崎日米協会会長

宮脇　雅俊

長崎日米協会は、おかげさまをもちまして本年創立 50 周年を迎えることになりました。当協会は、日米関係が大きく変化していく 1960 年代後半、「新時代の日米関係にふさわしい新しい日米協会を作りたい」という地元有志の方々の熱い思いを受け、1970 年（昭和 45 年）８月に創立されました。50 年もの長きに亘り、活動を続けることができましたのも、ひとえに歴代会長をはじめ、会員の皆様のご尽力、また関係者の皆様のご理解と温かいご支援の賜物であり改めて深く感謝申し上げます。

長崎は、鎖国時代から国内で唯一海外に門戸を開く国際都市として発展してまいりました。日米両国は、長い交流の歴史の中において、ひとときの困難な時代を経験致しましたが、その困難を克服することによって、友好の絆をより強固なものとしてまいりました。異なった歴史と文化を有する両国民が相互理解を深めていく過程において、民間レベルの草の根的交流は、とても重要な役割を果たしてきたものと思っております。

長崎市と米国ミネソタ州セントポール市が 1955 年（昭和 30 年）に姉妹都市提携を行ったこともそのひとつと言えるでしょう。これは、日本が行った初めての姉妹都市提携であり、その交流は現在も脈々と続いています。遠く離れた 2 つの市を結びつけたのは、両市民が「市民同士の友情が深まれば、争いのない平和な世界を築くことができる」という強い気持ちを持っていたからに他なりません。

長崎日米協会は、これまで講演会の開催や高校生・大学生の弁論大会の後援、クリスマス夜会の開催など両国の懸け橋となるよう様々な交流事業を行ってまいりました。そしてこれからも「平和都市長崎」「国際都市長崎」に存する協会として、次代の担い手である若者たちへ諸先輩方が長い道のりを経て築いてきた「友好の絆」を確実に引き渡すことが、重要な役割だと思っております。

創立 50 周年を機に日米の友情と信頼関係が一層深まりますよう努めてまいる所存でございますので、今後とも会員の皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

設立趣意書　(1970 年(昭和 45 年)8 月 7 日設立)

日本をめぐる国際関係においては、日米関係はもっとも基本的な問題であり、またこの際、相互の関係において新時代にふさわしい境地をひらくべき情勢にあると思われます。

日米間の友好信頼関係の一層の増進は、両国の国益に合致するばかりでなく、アジア太平洋地域ひいては世界の平和と安定を推進するものであります。

われわれは、わが伝統ある国際県長崎において、国民的外交の立場から、太平洋新時代に即応した新しい日米友好信頼関係を他に先がけて樹立し、さらにこれを社会各層に行きわたらせ国際協調の実を挙げ、世界の平和と繁栄に役立たんとする所存であります。

ここにおいて、地域の日米良識者の有志をもって本会を組織し、とくに次代を担なう若い世代の行動力に期待してその運営を行ない、会員の国際感覚をゆたかならしめ、大国の市民にふさわしい国際的責任の一翼を果すことをもって設立の趣旨とするものであります。

設立経過の報告

(長崎日米協会会報誌「パートナー」創刊号(1970 年 11 月発行)より

旧来の長崎日米文化協会を日米新時代にふさわしいものとして、新しくしたいという気運は、数年前から高まって来ていた。これを組織および運営を改善することによって解決するか、あるいは全く新しく再スタートすることによるかについて、清島頭取、古屋野先生を中心に、有志の間で十分な研究と検討がなされた。

その結果、旧協会を一応解散し、新たに長崎日米協会を作り、ソサエティーとしての機能を重視した運営を図ろうということになった。

このような考え方は、清島発起人代表から東京のアメリカ大使館、福岡の領事館、アメリカ文化センター等の関係機関にも通じられ、アメリカ側からも積極的な賛同を得た。

そこで、本年 5 月には事務局を長崎経済同友会に置き、青年会議所の有志を中心として幹事会を組織し、創立総会の準備ならびに運営の研究に着手した。また 6 月に入ると発起人を募り、長崎、諫早、大村、島原の各市の各界各層をもうらする強力な発起人会を構成して、会則ならびに事業計画案を作成し、8 月 7 日の設立総会を迎えた。

総会には、福岡から副領事ハバード氏、アメリカ文化センター館長ベーリングトン氏、佐世保からショウ基地司令官夫人をはじめ、棧県出納長、諸谷長崎市長、中塚長崎大学学長が来賓としてみえ、佐世保日米協会会長代理田中丸善三郎氏からはバーナーを記念にちょうだいした。100 人ほどの出席者により役員が下記の通り決定した。

会　　長　清島　省三　　(株)十八銀行　頭取
副 会 長　末永　聡一郎　三菱重工業㈱　長崎造船所長
副 会 長　鈴木　従道　　長崎放送㈱　社長
副 会 長　Miss Elizabeth R. Tennant
　　活水女子短期大学　教授
名誉会長　古屋野　宏平　長崎大学　名誉教授
監　　事　宮本　軍次　　(株)長崎相互銀行　社長
監　　事　石丸　太郎　　(株)石丸文行堂　社長

～回想～

協会創立のころ

長崎日米協会会報誌
「パートナー」29 号（2011 年 2 月発行）より

鈴木一郎長崎日米協会顧問（元会長）
2010 年 10 月 12 日付顧問就任

昭和 45 年の当協会創立に直接携わり、協会の歴史と共に歩んで来た者として記憶を辿りながら当時を振り返ってみたいと思います。

昭和 44 年の秋頃であったと思いますが、ある日、当時の日銀長崎支店の石坂支店長（父君は経団連の元会長）から電話があり、「ちょっとお会いしたい」との連絡を受け「何事ならん？」と当時の木造日銀支店の二階の支店長室を訪れました。

初対面の石坂さんの話の要旨は「清島十八銀行頭取との協議の結果として長崎に日米新時代に対応して、それに相応しい日米協会を作ろうということになり、その下働きを君にしてもらいたい。」ということでありました。当時既に長崎日米文化協会というのがありましたが、これは戦後、アメリカの占領政策の一環としてアメリカ文化を日本に周知させるためのアメリカ文化センターの流れを汲むものであり、昭和 47 年には沖縄返還も正式に決定した当時の国内の雰囲気は日米対等の新時代に移行した喜びに満ち溢れていました。

そういった中で、特に中央に於けるそのような気運の高まりを受けて石坂さんや清島さんが長崎に於いてもそれに即応した動きを始めるべきだと考えられたのは至極当然のことであったと言うべきでありましょう。

石坂支店長の要請を受け、私は早速青年会議所の仲間や、当時かなり多く居られた長崎在住のアメリカ人で作られていた社交団体「うさぎの会」の世話人でかねてよりお付き合いのあった、ABCC（原爆被害調査研究所、現放影研）所長のドクター、セイガン夫妻や三菱重工にエンジニアとして駐在していたホーン夫妻等にも相談しながら新協会の設立に漕ぎ着けました。

最大に配慮した点は従来の日米文化協会との関係でしたが、これを発展的に解消し、会長の古屋野宏平長崎大学名誉教授に新日米協会の名誉会長に就任して頂くことによって全て円満に移行でき、安堵いたしました。当初の事業活動の主なものを挙げると、英語弁論大会がまずその最大のものでありました。これは高校生の部と大学生・社会人の部の二部門の優勝者 2 名をアメリカに短期留学させるもので、それらの必要資金は全て十八銀行の社会開発振興基金からの援助によるものでした。その他、当時はアメリカ艦船の入港時に乗組員と市民の有志チームとの間で野球やバスケットの親善試合なども行われていました。

2019年度　理事会・通常総会開催

2019年8月27日（火）ＡＮＡクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルで、2019年度長崎日米協会の理事会・通常総会を開催いたしました。総会には約30名の会員の皆様にご出席いただき、2018年度の事業・決算報告及び2019年度の事業計画・予算案等が審議承認されました。

理事会の様子

総会の様子

講演会開催

2019年8月27日（火）総会終了後、学校法人長崎学院 長崎外国語大学 副学長 姫野 順一 氏に「映像に見る長崎における日米関係の歴史」と題しご講演いただきました。姫野氏は経済学史とともに長崎学を専門としており、今回は鎖国時代から幕末にかけての「長崎における日米関係」について、古写真をふんだんに用いてご講演いただきました。幕末の志士達の集合写真など貴重な映像を見ながら、坂本龍馬や高杉晋作がアメリカについてどのような認識をもっていたかなど、大変興味深い話を聴くことができました。

姫野順一氏

講演会の様子

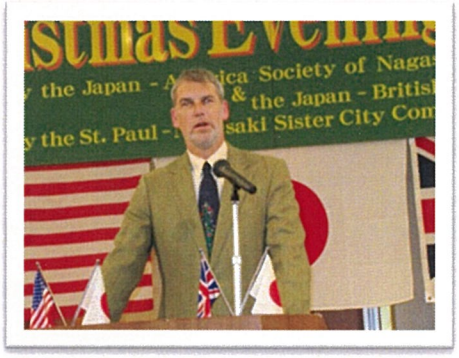
日米親善「秋のつどい2019」に出席

2019年9月25日(水)福岡西鉄グランドホテルで、福岡日米協会主催の日米親善「秋のつどい2019」が開催されました。今回の「秋のつどい」は8月に着任された在福岡米国領事館ジョン･C･テイラー首席領事、ユキ･近藤･シャー広報担当領事の歓迎会を兼ねての開催となりました。九州･山口から集まった多くの日米両国の関係者が、お２人を盛大に歓迎しました。当協会からは高橋事務局長が出席しました。

長崎日米協会・長崎日英協会合同「クリスマス夜会 2019」開催

2019 年 12 月 5 日（木）ＡＮＡクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルで、「長崎日米協会・長崎日英協会合同クリスマス夜会２０１９」を開催いたしました。今年で 11 回目となる本パーティーには、在福岡米国領事館ジョン･Ｃ･テイラー首席領事、ユキ・近藤・シャー広報担当領事を始めＡＬＴやＣＩＲなど過去最高の約 150 名の皆様にご参加いただきました。

パーティーは宮脇長崎日米協会会長の挨拶、ジョン･Ｃ･テイラー首席領事の来賓挨拶で開会しました。会場では、長崎県内で音楽活動されている下条様・奥田様・濵口様３名によるクリスマスソングの演奏や毎年恒例のプレゼント抽選会が行われ、大いに盛り上がりました。また、今年は長崎大学多文化社会学部の学生５名の方々に会場内の通訳や抽選会のサンタ役などボランティアスタッフとして活躍していただきました。美味しい料理と美味しいお酒で終始和やかな雰囲気の中、今年も一足早いクリスマスを楽しみました。



ジョン･Ｃ･テイラー首席領事

長崎大学学生ボランティア

在福岡米国領事館主催「長崎大学大使館連続講座」に出席

2019 年 12 月 5 日（木）と 2020 年 1 月 16 日（木）の 2 回にわたり、長崎大学で在福岡米国領事館主催「大使館連続講座」が開催されました。1 回目は在福岡米国領事館ジョン・Ｃ・テイラー首席領事とユキ・近藤・シャー広報担当領事、2 回目は米海軍佐世保基地アキ・ニコルズ広報官と在沖縄米国総領事館ロバート・ケプキー総領事が講義を行いました。学生に向けてすべて英語での講義でしたが、長崎日米協会からも延べ 14 名が出席し、ふだん聴くことのできない領事の話に熱心に耳を傾けました。

ジョン･Ｃ･テイラー首席領事

ロバート・ケプキー総領事

英語スピーチコンテスト等への後援

＊第 28 回長崎県高等学校英語スピーチコンテスト

【開催日】2019 年 10 月 5 日（土） 於:長崎県立佐世保南高校

【結　果】第 1 部　第 1 位　安樂 結夢さん　(聖和女子学院高校) ※九州大会では 3 位入賞

第 2 部　第 1 位　廣里 志穂さん　(長崎北陽台高校)

【安樂 結夢さんの感想】

スピーチに乗せた私の思いが一人でも多くの人に届くようにと、先生方のご指導の下、大会までの練習を頑張りました。それが結果に結びついたことを嬉しく思います。貴重な経験をさせて頂き、多くのことを学ぶことが出来ました。今後の活動に活かしたいです。

【廣里 志穂さんの感想】

今回私は初めて九州大会に出場しました。各県大会を勝ち抜いてきた生徒が集まって、自分のスピーチ（世の中の問題点）を発表する場でした。県大会の倍以上の観客がいる中で、どの生徒のスピーチもとても上手で、かなり緊張しました。しかし、本番では今までで一番自分らしいスピーチができたのでよかったです。今回の経験で見つかった弱点を克服し、今後の学校生活に生かしていきたいと思います。

＊第 14 回長崎県高等学校英語ディベート大会

【開催日】2019 年 10 月 12 日（土） 於:長崎県立諫早高校

【結　果】第 1 位　佐世保北高校

第 2 位　長崎西高校

【参加者感想】

ディベートで一番学んだことは努力の大切さだ。チームメイトの足を引っ張らないように、またチームに貢献するために毎日準備、練習を続けた。辛い日々が続いても努力し続ける「辛抱強さ」を養うことができた。辛い時にはいつも仲間が支えてくれた。一人ではできないことでも仲間がいればできるということがある。社会問題や英語を学ぶことができたのはもちろんだが、それ以上に精神面で大きなものを得ることができた。このような経験ができた自分は恵まれていると思う。（2 年女子）

英語スピーチコンテスト等への後援

＊第7回活水女子大学エリザベス・ラッセル杯英語スピーチコンテスト

【開催日】2019年10月12日（土）　於:活水女子大学

【結　果】第1位　西村 祐香さん　(九州ルーテル学院大学4年)

第2位　小川 莉歩さん　(活水女子大学2年)

第3位　樋田 奨平さん　(青山学院大学2年)

【西村 祐香さんについての総評】

西村さんは、カナダに留学した際に英語で自分の考えを伝えることのできる喜びを体験しました。その思いを英語教員になって、若い人たちに伝えたいという抱負を語りました。英語・内容・伝達力の評価項目全てにおいて、バランスよく高得点を獲得し、見事優勝を果たしました。

＊第12回長崎外国語大学英語ボキャブラリーコンテスト

【開催日】2019年12月14日（土）　於:長崎外国語大学

【結　果】優　勝　精道三川台高校

準優勝　久留米大学附設高校

【精道三川台高校参加者の感想】

・英和辞典と英英辞典のニュアンスの違いがよく理解できた。

・単語を覚えるきっかけになった。

【久留米大学附設高校参加者の感想】

・準優勝できてよかった。楽しかった。

・単語学習のよい機会となった。

＊第6回活水女子大学高校生英語プレゼンテーションコンテスト

【開催日】2019年12月21日（土）　於:活水女子大学

【結　果】第1位　石田 とねりさん　(活水女子高校2年)

第2位　緒方 楓佳さん　(諫早商業高校3年)

第3位　古賀 七海さん　(活水女子高校2年)

【石田 とねりさんの感想】

私はプラスティックごみについて調べ、環境汚染を防ぐために自分たちに何ができるのかを考えました。プレゼンテーションの際には、話すだけでなく伝えることを意識しました。普段から疑問に思っていることを調べて発表することができてよい機会になりました。自己採点は90点ぐらいでしたが、発表順が1番で、待っている間に優れたプレゼンテーションをいくつも聞いたので、まさか優勝できるとは思ってもいませんでした。

こんにちは！ロバート・チッチーニです！

私は3年前、アメリカから長崎に来て、現在は北陽台高校でALTをしています。

私は最近ある悩みを抱えています。数日前、私のアパートで大きな「アシダカグモ」がタマゴを産み、それが一斉に孵化しました。数百匹の小さな蜘蛛たちが台所や畳の部屋に降りてきたのです。

そう言えば3年前、長崎に来てすぐのころ、シャワーを浴びている私の前に、一匹のとても大きなアシダカグモが現れました。その蜘蛛は私に来日歓迎の挨拶にきたのでしょうが、私は殺虫剤で応えてしまったということがありました。日本に来て初めて「蜘蛛を殺す事は縁起が悪い事だ」と知りました。現在アパートに蜘蛛はいませんが、このことで数年分の不運を背負ってしまったのではないかと心配しています。

私が来日した時歓迎してくれたのは、もちろん蜘蛛だけではありませんでした。北陽台高校の皆さんも大歓迎してくれました。着任後、初めて学校の皆さんの前でスピーチをしました。それは夏の暑い日でしたが、体育館に集合して、私のスピーチを待っていてくれました。私は緊張と暑さでスーツをびしょ濡れにしながら、不慣れな日本語でスピーチしたことを覚えています。

さて、これから数週間後に再び生徒の前でスピーチをします。今回はお別れの挨拶です。私が教えた生徒は卒業してしまい、当時一緒に働いた先生方の多くも他校に異動されたので前回とは全く異なる生徒たちの前でスピーチをすることになります。

スピーチで何を話すかはまだ決めていませんが、スピーチの初めには「私は授業中皆さんの間違った英語をいろいろと指摘してきましたが、今回は皆さんが私の間違った日本語を直すチャンスですよ。」と伝えようと思います。そして、「この高校で皆さんと過ごした日々をいつまでも忘れない。」ということも伝えたいです。とても名残惜しいです。そして世界の反対側の国に行くことは、とても勇気が必要で、ワクワクする気持ちと同時に不安な気持ちにもなりますが、生徒皆さんにはぜひチャレンジして欲しい。」と伝えたいと思います。アメリカに帰ったら、日本を思い出せるものをいつもそばに置きたいと思います。アジサイや桜を家の側に植え、収集した陶器を飾りたいです。友達と一緒に日本を旅した時の写真も壁に飾りたいです。ほうじ茶を飲みながら日本での楽しかったことを思い出したいと思います。私は思い出の品に囲まれながら、太平洋の向こう側の“故郷”をいつも懐かしく思い出すことになるでしょう。

編集後記

長崎日米協会は、おかげさまをもちまして本年創立50周年を迎えることができました。
本会報誌は、「日本と米国とが互いに良きパートナーとして相互信頼と理解を深めていく」という当協会の設立目的から「Partner（パートナー）」と名付けられました。今後とも、会員の皆様の良きパートナーとしてお役に立つ情報を提供できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

編集・発行/長崎日米協会（株式会社長崎経済研究所内）
〒850-0861 長崎市江戸町6番5号　江戸町センタービル5階
TEL 095-828-8859　FAX 095-821-0214〈 事務局：高橋・森 〉